

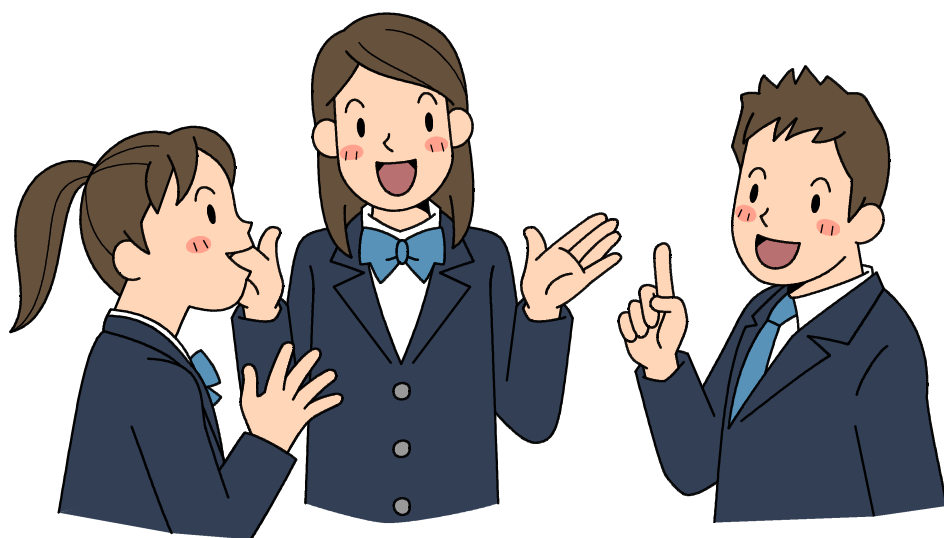
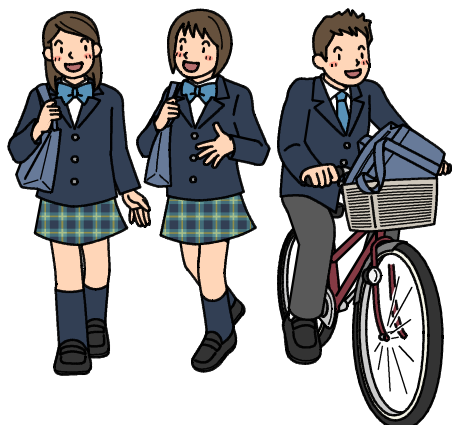
身延・南部地区中高連携事業

中高連携通信

南部中学校／身延中学校／身延高校

中学校・高校・地域。
新しい視点で教育を捉える！

身延・南部から
日本へ発信！



新しい視点から

次の世代を育てる！

連携の教育理念・教育目標

◎教育理念

6年間を通して確かな学力と豊かな人間性を育み、地域と協働して『キャリア教育』を進め、次代を担う人材を育成する。

○教育目標

学力の向上

計画的・継続的な教育を展開し、自主的・創造的な学習態度を育成する。

豊かな人間性の育成

豊かな心を育み、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。

地域との協働

地域への理解を深め、主体的に地域社会の形成に参画する態度を養う。



平成28年12月
発行元:身延高等学校
<http://www.minobu.kai.ed.jp>

高校授業アシストの効果！

高校授業アシストの目的は？



高一ギャップ・高クライシスの原因は、高校で学習する内容の難易度が上がり、また1時間の授業内で学ぶ分量が増加したからだけではありません。

高校では、これまで以上に主体的な学習への取り組みが求められたり、生活集団が多様化する中で改めてコミュニケーション力が求められています。

授業の難易度と分量のアップに対応するためには、家庭学習の主体的で質的な変化が求められます。

高校の授業もアクティブラーニングを導入して、生徒が主体的に取り組めるようにサポートしていますが、難易度や分量は変化しません。理解するためには、これまで以上の主体的で深い学びが求められます。

さらに、身延高校は総合学科高校なので選択科目が多く、中学校より多くの先生とのコミュニケーションが求められます。

また、通学区域が広範囲になるため、友人関係でも新たな環境に身を置くことになります。そのため、高校入学直後の4～6月は、新しい人間関係を構築するのに大きなエネルギーが求められます。

この様な中で、授業に疑問があっても、友達にも先生にも質問がしづらく、疑問を放置しがちになる生徒も出てきます。

「(高校授業の) 授業アシスト」は、高校一年生が、不慣れな学校生活でスムーズに学習体制を整えることができるように考えた方法です。

特に、学力差の大きい数学と英語で、中学校で教わった先生が高校授業で生徒をサポートします。安心して授業や学習に臨める雰囲気をつくります。また、中学校での躓きを高校入学直後に解消することも目的の一つです。

さらに、中学校の先生は、高校生の苦手分野の情報を中学校に持ち帰って、中学校の授業改善に活かすことになります。

高校授業アシストの学力向上イメージ

中学校でのつまづき部分を早い段階で解消

身延高校

先生(中学校)が
高校授業アシスト

心のゆとり・安心
生徒理解
経験・ノウハウ

南部中学校

身延中学校

情報をフィードバック

高校生の苦手分野を中学校の授業改善に活かす

三校合同研修会(6月3日)

6月3日(金)に先生たちが、中高連携事業の目的と目標について意思統一を図る研修会をしました。

主に、連携の必要性・連携の目標・昨年度の成果・今年度の連携事業・学力の向上に向けた具体的取り組みの5つについて学習しました。昨年までの成果を活かし、「相互授業アシスト」を中心に、多くの連携行事に取り組んでいます。



- ◆ 相互授業アシストは、「高一ギャップ・高ークライシス」に対応するためです。
- ◆ 相互授業アシストを中心に12事業をおこなっています。

サマーセミナー

今年で3回目になります。8月1日(月)から3日間、国語・数学・英語・理科の4教科を身延高校で学習しました。



小中高ボランティア活動

11月2日(水)に実施しました。



本年度の12事業

学力の向上

豊かな人間性の育成

地域との協働

①中学校授業アシスト(通年)

高校の先生が、中学校3年生の数学と英語の授業をアシストします。南部中は火曜日、身延中は木曜日です。

②高校授業アシスト(通年)

中学校の先生が、高校の授業のアシストに行きます。月曜日と水曜日です。身延高校に進学すると、授業のスピードと難易度が、1年生から大きく変わる数学と英語でアシストします。

③活動合同練習(通年)

陸上競技部・バレーボール部・ソフトテニス部・バスケットボール部・柔道部・吹奏楽部で活動します。

④三校合同研修会(6月)

6月3日(金)に先生たちが、中高連携事業の目的と目標について意思統一を図る研修会をします。

⑤サマーセミナー(8月)

8月1~3日に身延高校で、希望する中学生が高校受験(国語・数学・英語・理科)の対策学習会を行います。

⑥防災サマーキャンプ(8月)

8月4~5日に身延高校で、身延高校生徒と両中学校の代表生徒が南海トラフ沿いの巨大災害を想定した防災学習を1泊2日で行います。滅多に学べない、「生き延びるため」の最先端防災学習です。

⑦演劇指導(9月)

中学校の学園祭の演劇を、身延高校演劇部の先生と生徒が指導します。完成度の高い演劇を目指します。

⑧ライフミュージアム2016(10月)

学校を[博物館]に見立てて10月6日(木)~12日(水)に一般に公開します。身延中学校も出展します。

⑨小中高ボランティア活動(11月)

小学生・中学生・高校生がともに活動することで、公共の精神・郷土愛・地域の一員としての自覚などの「豊かな人間性」を育みます。(南部地区を除く)

⑩総合学科発表会(2月)

身延高校の1年から3年の生徒が、キャリア教育の成果を発表します。身延高校での学習を理解する機会です。中学生は、希望参加です。

⑪相互授業参観(年3回)

高校・中学校の先生が、互いの授業を参観して、生徒の指導方法を研究します。

⑫情報発信(不定期)

中学生に向けて、中高連携事業の内容を公開していきます。中学生の皆さんが、何を、何のために連携して学習しているのかを報告します。



防災サマーキャンプ

- ◆8月4日(木)～5日(金) 身延高校
中学校と連携して3回目になります。南海トラフ巨大災害を想定して、1泊2日で防災について学習しました。避難訓練と違い、これまでの巨大災害の様子を学習した後、災害が防げないことを前提として減災について学習しました。
「ハプニングもあったが、すべてを一から始める大変さがよくわかった。」「意外と身近に危険な場所が多かった。」という意見から、参加者は減災教育の重要性を理解しました。



演劇指導

- ◆8月19日(金) 南部中学校
- ◆9月2日(金) 身延中学校
両校の中学生が学園祭で発表する演劇に対して、身延高校演劇部の顧問と部員が指導と助言を行いました。シアターゲームで演劇の基本である“立ち位置”“距離感”“発声の方向”を学んでもらいました。このワークショップによって、完成度の高い作品に仕上がっていきましました。
(※身延高校演劇部は関東高校演劇研究大会に出場を決めました。)



ライブミュージアム2016

- ◆10月6日(木)～12日(水) 身延高校
今年も中学生や高校生の素晴らしい作品がたくさん展示され、近隣の小学生や身延・南部中学生を含め約400名が鑑賞されました。
「さすがは高校生!」「早く高校に入学したい。」「自分でもこんなにすごい作品が作れるのかな。」など、中学生からの高校生活に向けたコメントも見られました。

これからの連携事業



総合学科発表会(2月11日(土))

平成23年よりおこなっている身延高校のキャリア教育の成果発表会です。1年で「夢の発見」2年で「夢の育み」、3年で「夢の実現」をテーマに掲げ、1年間の学習成果を生徒が発表します。

案内が1月中に各中学校に配付されます。中学生は、身延高校生と未来の自分と重ね合わせて見てください。高校3年間の成長をうかがうことができます。

